

平成26年度第6回 福島県廃炉安全監視協議会(10月22日開催)での会議中議論についての回答

議論の内容	回答
<p>1 ○高坂原子力専門員 県民を含め、気にしているのはモニタリングの監視であり、東京電力のホームページを確認したが、モニタリングポストはリアルタイムで表示しているが、ダストモニタは準備中となっている。表示の仕方を工夫して、示していただきたい。</p> <p>○渡辺原子力安全対策課長 今の件ですが、ダストモニタについて、ホームページの表示が「現在のモニタリングの状況」について、準備中となっている。ホームページを利用する方は、現在の情報を知りたくてアクセスしているため、誤解を与えることとなっていないか。</p> <p>●東京電力 ご指摘の趣旨を理解しました、今後も継続的に改善をしたい。皆様に誤解を与えないように、表示について我々で工夫する。</p>	<p>○ご指摘のとおり、ダスト測定自体が準備中であるかのような誤解を与える表現であったことから、平成26年10月22日から作業実績の公表とともに『警報発報の有無』について記載し、作業日には常に更新しております。</p> <p>また、以下のような表示方法を工夫し、引き続きわかりやすい情報発信に努めてまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業実績カレンダーに、見るための操作方法を記載 ・作業予定表やモニタリングについて更新の考え方を記載（作業のない日はその旨記載） ・ページトップに目次をつけて見たいページへアクセスしやすく改善
<p>2 ○兼本委員 ダストモニタの時定数については、5分ということであったが、よいか。</p> <p>また、瞬時に上がるような事象をつかむために、情報の伝え方を工夫するべき。</p> <p>○石田委員 ダストモニタの測定にあたって、時定数という言葉で支障はないのか。</p> <p>●東京電力 我々が実施している測定については、15秒毎に測定した数値の5分間平均を記録している。時定数という言葉で問題がないかどうかについては、確認したい。</p>	<p>○連続ダストモニタは、3機種を使用しています。構内及び建屋近傍のダストモニタは、富士電機製と東芝製、3号機南側のみキャンベラ製を使用しており、モニタリングポスト近傍に設置したダストモニタは、キャンベラ製を使用しています。</p> <p>3機種とも、ダストを吸引しながら計数し、演算をして指示値を出す仕様です。富士電機製は計数率に応じ時定数が変わり、その時間は現在の使用場所で20秒程度、東芝製は1分間、キャンベラ製は15秒間で計数しています。</p> <p>従って、ご懸念されておりますダストの発生時に何十分も時間の遅れが生じるようなことはなく、時定数としては、数十秒から1分程度ということになります。</p> <p>尚、ダストモニタが警報を発した場合、警報が発した場合の連絡体制について定めており、迅速な対応に努めてまいります。</p>
<p>3 ○高坂原子力専門員 今後、建屋カバーのパネルの2枚の取り外しを実施することになるが、取り外した際は、屋根パネルの内側に飛散防止剤が散布されているかの確認を実施していただきたい。また、実際の建屋カバーの解体作業開始は3月からとなるが、ダストモニタの測定値の表示の仕方について、数値のトレンドの情報提供をできるようにするなど、本格的な建屋カバーの解体工事までには、しっかりと情報提供をできるようにしていただきたい。</p> <p>●東京電力 ダストモニタの測定値の情報提供の方法については、今後も検討したい。</p>	<p>○飛散防止剤散布装置のモックアップにより、屋根パネル裏面への散布が実施できることを確認しており、現地での実施時にはノズル先のカメラにより動作状況を確認しております。</p> <p>○ダストモニタの測定値の表示方法につきましては、現在の環境では、設備等の大がかりな改修が必要であり、相当期間を要することから、即時の対応は困難な状況ですが、警報が発報された場合には、有意な変動が否かが判るよう、トレンドを準備でき次第、ホームページへ掲載するなど、皆さまにわかりやすい形でお知らせしてまいります。また、今後の改善に向けて引き続き検討を進めてまいります。</p>